

会社案内

Corporate Profile

100年先も企業が成長し続ける価値創造へのステップ
ー 統合報告

ごあいさつ



代表取締役 三代まり子

2011年に個人事業主として創業以来、上場企業様のIR情報の開示を支援してまいりました。多くの企業様のご要望と私自身の「統合思考型経営者をもっと増やしていきたい」という想いが重なり、2017年からは統合報告サポートを専門に行うための会社として法人化致しました。

企業の情報開示は、企業を取り巻く内外のさまざまな出来事が大きく影響しています。

例えば、2001年に起きた過去最大規模の会計不正による米国エンロン社の倒産がありましたね。また2008年の金融危機(リーマンショック)の際に指摘された投資家の短期志向化の是正や、企業価値に占めるインタンジブルズ(無形資産)の役割増大による企業価値の捉え方に大きな変化があります。企業の情報開示のあり方に対して、今また新たな変革が求められています。

こうした時代の要請を受け、国際統合報告評議会(IIRC)から公表された「国際統合報告フレームワーク」(2013年)をきっかけに、日本でも多くの企業が統合報告に取り組み始めています。

統合報告書を作成する企業の数が増える中、さまざまな悩みも聞こえてくるようになりました。例えば、

- ・今利益が出ていない中で、統合報告書を作成しても誰も読んでくれないのではないだろうか…。
- ・既に多くの情報を外部に発信しているのに、これ以上何を開示すればよいのか…。
- ・そもそも何から始めればよいのだろうか…。

一方で、悩みの背後にある原因は共通しているのではないのでしょうか。その根本原因に対する解決策として提供している弊社サービスでは、これまで経験してきた以下のようなことを活かしています。

- ・アメリカの大学で会計学を専攻 / 日本の大学院でMBAを取得
- ・IIRC 国際統合報告フレームワークの開発に日本人で唯一の事務局として参画
- ・IIRC コネクティビティ・バックグラウンドペーパーの総括担当及びパイロットプログラム¹へ関与

このような知見やコンサルティングを通じてお客様に育てて頂いていることをベースに、他の多くの企業においても統合報告の本質を理解していただくことが重要だと強く思い活動しております。

企業の情報開示とは、単なる義務やコンプライアンスを目的とするだけではなく、企業が自らの本源的な価値に気づき、長期にわたって価値を創造する重要な経営プロセスの一環です。

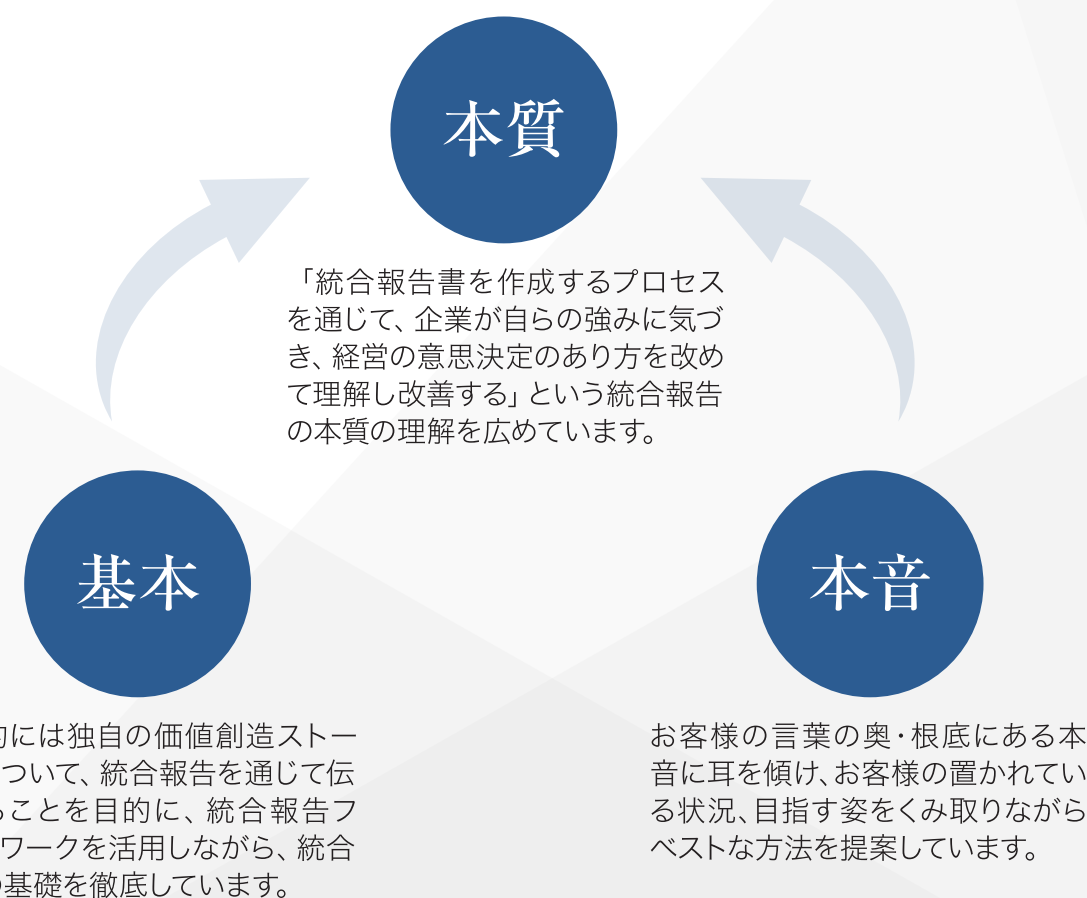
RIDEAL 株式会社ではお客様の本音をお聞きし、悩みを共有し、お客様に寄り添って統合報告のための基盤を作ります。そして、統合報告を通じてより魅力的な企業へ進化するために長期的に支援してまいります。

¹ グローバル企業を集めて試験的にフレームワークを適用して統合報告書を作成するプロジェクト

ビジョン

自らの視点と言葉で、自社の独自性の高い価値創造ストーリーを分かり易く伝えることのできる“統合思考型”経営者を増やします。

RIDEALの3つのこだわり



事業内容

メインサービス

上場企業の統合報告アドバイザー

アドバイザリー (ベーシック)

- 統合報告書レビュー
- 週1回の貴社成果物に対するアドバイス及び指示出し&チェック

基礎徹底 コース

- 統合報告書レビュー
- 年間プランニング
- チーム研修会
- マテリアリティ研修
- 社内エンゲージメント準備・実施
- グランドデザインチェック
- 制作過程チェック
- 最終成果物チェック
- フォローアップ

創意工夫 コース

- 基礎徹底コースの内容に加え…
- 価値創造の全体像やマテリアリティのブラッシュアップ
 - 独自 KPI の設定
 - 社内外エンゲージメントの強化 等

統合発展 コース

- 基礎徹底コース&創意工夫コースを踏まえ…
- 会社独自のプロセスの確立と社内定着化のためのナレッジマネジメント
 - 社内マネジメント強化
 - 社員教育 等

その他サービス

- ウェブサイトによる情報提供
(上場企業 IR 担当役員のための「統合報告推進室」)
- セミナー・執筆
- ダイアログファシリテーション
- 海外事例調査
- その他リサーチ
- 翻訳



統合報告とは？



統合報告は、よく Long Journey（長い旅路）だと表現されることがあります。それは、統合報告に**完成形はなく進化形があるのみ**だからです。

また、**企業の信頼性**を構築し、維持していくための終わりなき旅とも言えます。企業が長い旅を成功させる秘訣は、長期的な改善を積み重ねる旅路（＝プロセス）を**楽しむ**ことです。

Long Journey

長い旅路

- 統合報告書を作成する目的が明確で、統合報告のプロセスを通じて、**社内に一体感**が出ます。
- 中長期の視点で取り組むため、**継続した改善の取り組み**に繋がります。
- 統合報告書を内外の重要なステークホルダーとの**建設的対話**に役立てることができます。

Wrong Journey

間違った旅路

- 他社の統合報告書の例を取り入れるが、自社の方針が無く、**一貫性のある情報を開示できません**。
- 社内で統合報告についての理解や認識の共有が行われておらず、**サイロ化（各部門のタコつぼ化）が解消できません**。
- 統合報告書を作ることが目的化され、本来の統合報告がもたらす効果を測定していないため統合報告書の**継続的改善ができません**。

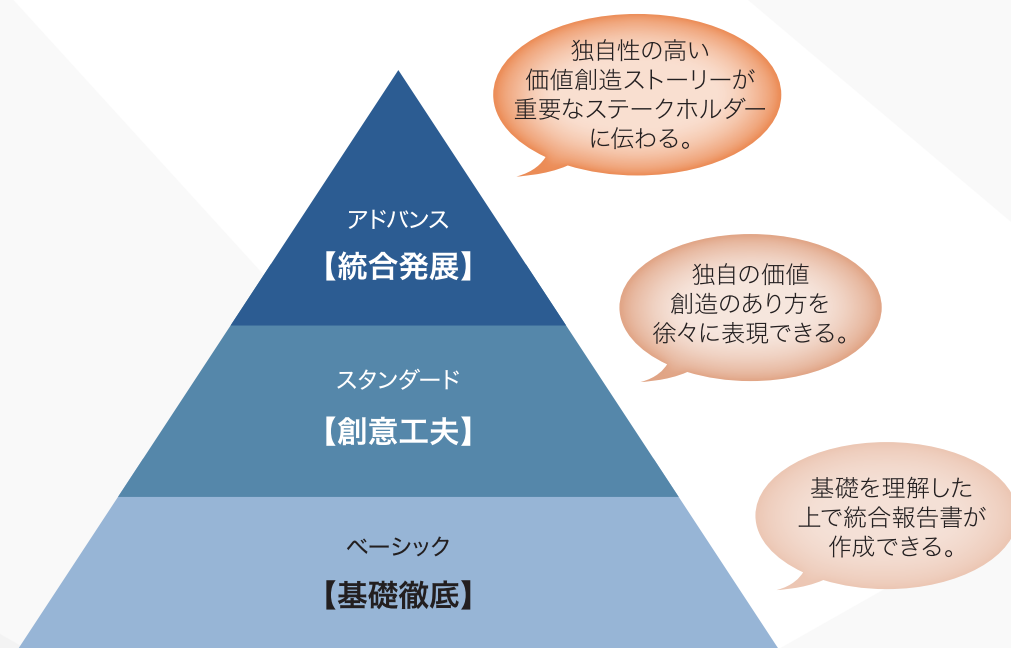
ただし、Journey は Journey でも気を付けなければならいもう一つの Journey があります。それが、**Wrong Journey (間違った旅路)**です。無意識のうちに間違った旅路に進んでしまうと、課題が解決できずにいたり、課題が大きくなったりする場合があります。

RIDEAL 株式会社では、お客様が Wrong Journey に進んでいないかを確認しながら、**正しい方向**へと導いていきます。

アプローチ：全体像

統合報告書（ツール） × 建設的な対話 = 持続的な価値創造

離
↑
破
↑
守



結果

- マネジメントと投資家との対話が深まり企業価値 UP
- 企業の魅力を発信し、ヒト・モノ・カネの集まる仕組み作りに貢献
- 開示内容を継続的に洗練させていくプロセスへと進化

RIDEAL ではクライアントの皆様が正しい道を選択し、統合報告がもたらす変革の波に乗れるように支援していきます。そのためのアプローチには、「守・破・離」の概念を当てはめ、土台作りに重点を置いた長期的アプローチを提案しています。

① 基礎徹底コースの例

1 年目 重要事項のストーリーマッピング

成果

- 企業の長期の価値創造において何が重要であるか、重要な情報の絞り込み方を習得する。
- 絞り込まれた重要な事項のつながりを表現してストーリーを組み立てることができるようになる。
- 「組織の概要と外部環境」「リスクと機会」「戦略と資源配分」「パフォーマンス」に焦点を絞った統合報告書の脱稿。

To Do

- ✓ フレームワークに基づく研修テーマ
価値創造全体像＋情報の相互結合性、重要性、組織の概要と外部環境、リスクと機会、戦略と資源配分、パフォーマンス
- ✓ マテリアリティ&グランドデザインの決定

2 年目 重要事項の定量化（KPI化）

成果

- 情報利用者が咀嚼しやすいように情報を簡潔にまとめることができるようになる。
- 適切なKPIを設定し、情報の一貫性と比較可能性を高めることができるようになる。
- 「ガバナンス」「ビジネスモデル」「パフォーマンス」を追加し、より長期の企業の価値創造のあり方を表現できる進化した統合報告書の脱稿。

To Do

- ✓ 1年目の振り返り
- ✓ フレームワークに基づく研修テーマ
簡潔性、一貫性と比較可能性、ガバナンス、ビジネスモデル、パフォーマンス、6つの資本
- ✓ マテリアリティ&グランドデザインのブラッシュアップ

3 年目 ステークホルダーとの建設的対話

成果

- 統合報告書をベースに、ステークホルダーとの信頼性を高める対話の準備を整えることができるようになる。
- 価値創造の全体像を表現し、ステークホルダーから信頼を得られるようになる。
- 将来情報に焦点を当て、長期の価値創造への筋道をより明確に表現した統合報告書の脱稿。

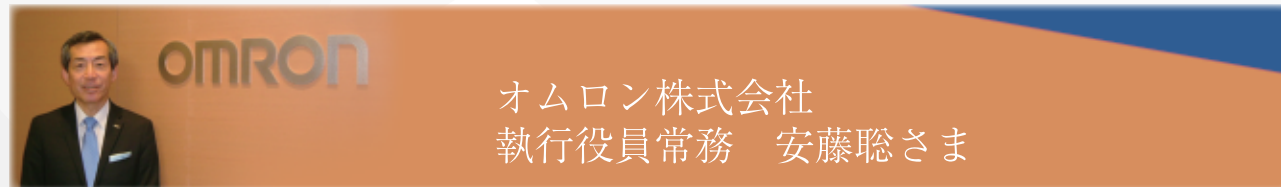
To Do

- ✓ 2年目の振り返り
- ✓ フレームワークに基づく研修テーマ
戦略的焦点と将来志向、ステークホルダーとの諸関係、信頼性と完全性、展望
- ✓ マテリアリティ&グランドデザインのブラッシュアップ

土台である「守・破・離」の「守」の段階においては、上記のようなサンプルアプローチがあります。お客様のニーズやペースを踏まえ年度毎のテーマをカスタマイズしていきます。

お客様の声

Q 実際にサービスを活用して、どのような変化や気づきがありましたか。
また、御社のビジネスでどのような良い相乗効果が起こりましたか。

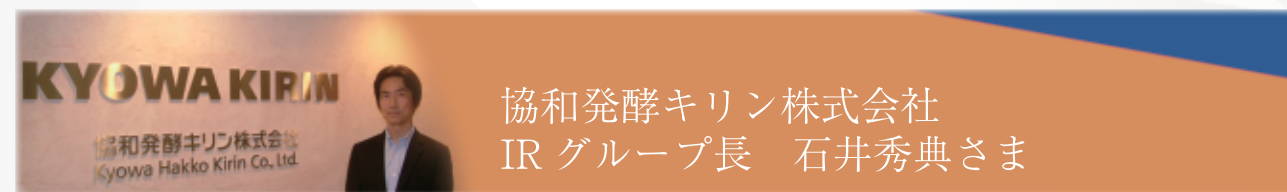


オムロン株式会社
執行役員常務 安藤聡さま

3 つ課題（① 経営の重要課題（マテリアリティ）の特定、② 情報の連関性（コネクティビティ）の強化、③ 国際統合報告評議会（IIRC）が推奨する統合報告フレームワークとの準拠性の確保）以外にも、三代様の客観的な指摘や提案を通じて、弊社として見落としていた問題点（グラフや表の見せ方）なども改善することができました。

そして、様々で広範囲な示唆やレビューを通じて、弊社チームメンバーの統合報告に対する理解が深まり、**日々の投資家向け IR 活動全体のレベルアップが実現**できました。

A



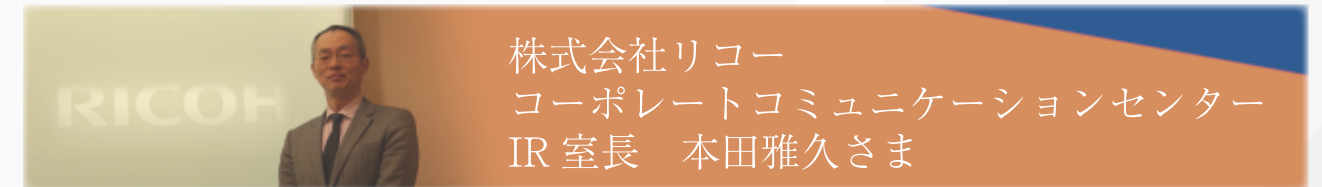
協和発酵キリン株式会社
IR グループ長 石井秀典さま

IIRC のフレームワークに縛られ過ぎていたことは大きな気づきでした。ビジネスモデルが違えば統合報告書も違ってくる。統合報告書コンテンツは各社各様であることが当然であり、型にはまる必要など全くないということ。

公開できる KPI が極限られていることに気付かされました。この点は長期投資家に対し企業価値を訴求して行く上での課題のひとつであることをマネジメントに共有させて頂きました。これからの経営計画策定においては、会社成長の物差しとして公開できる KPI がいかに重要であるかを IR の視座からフィードバックしています。

統合報告書制作の過程を通じて、**如何に統合的思考を持つことが企業の持続的成長を続ける上で重要であるか、その認識が芽生えた**気がします。これがプロジェクトのメンバーから制作に協力頂いた社員へと伝播したように感じます。

A



株式会社リコー
コーポレートコミュニケーションセンター
IR 室長 本田雅久さま

企業価値（成長性、持続可能性）を表現するにあたり、「企業価値創造モデルをストーリーで示すことが大切であり、加えて KPI にて信頼性を高めることが望ましい」とのアドバイスをいただきました。まだまだ途上ではあるが、現在も常に意識しています。

加えて「情報に結合性を持たせることで、各情報の価値が高まる」とのアドバイスをいただきました。**結合性を意識することは、企業価値の訴求効果だけではなく、各部門間の連携性の向上にも繋がっていると感じています。**

A

理念

■ 社名「RIDEAL」(リディアル)の由来

RIDEAL(リディアル)とは、Real(真の歩み)とIdeal(理想の姿)を掛け合わせたオリジナルの造語です。スピードが求められる忙しい日々においては、つい目先の成果や利益に焦点が当てられがちです。しかし、長期的な理想の姿や状態を描き、未来と現在の点と点を繋いでいくことこそ重要だと考えます。

「人、組織、社会の、RealとIdealをブリッジしていきたい」

社名“RIDEAL”にはそのような理念が込められています。

RIDEAL株式会社
代表取締役 三代まり子

元国際統合報告評議会(IIRC)のテクニカルマネージャーとして日本人で唯一枠組みの開発に事務局として関与。
コネクティビティ・バックグラウンドペーパー起草責任者。WICIによる無形資産(インタンジブルズ)の開示に関するフレームワーク(WIRF)の起草責任者。米国公認会計士。

【初回限定】 1時間無料相談会

✉ rideal@rideal.org

🌐 <http://www.rideal.org>

📍 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-12 紀尾井町ビル 17F

☎ 03-5276-2877